

---

領域名：地域保健看護

報告者：牧内忍

---

教育及び実践の課題

---

ChatGPT などの「生成 AI」の急速な進化に伴い、教育現場でも学生や教員がどのように「生成 AI」と向き合っていくか、考えながら活用していくことが求められている。不正行為に利用されることもあるが、教員がそのことを認識しつつ、提供された情報にフェイクや間違いが含まれることもあることを学生にも正しく伝えることで、批判的な学習にも活用できる可能性がある。使用を禁止したり、使わないような工夫をしたりするよりも、学生も教員も上手に活用して成果を上げる工夫ができないか考える必要がある。

---

活用した論文の概要

---

ChatGPTは健康教育、実践、再検索に影響を与えるだけでなく、それらを大きく変えることになるだろう。高等教育におけるChatGPTの位置づけは、メリットとリスクのバランスの上になり立つものであり、その利用に対する様々なスタンスを検討することは、教育者や教育機関の重要な意思決定に役立つと思われる。「3種類の仮想ケースシナリオ」から次のように解説された。**回避の立場**：ChatGPTの存在を無視したり、高等教育への必然的な影響を避けたりすると、即座にマルチレベルの弊害が発生し、看護学と健康科学にとって重大な過ちとなるであろう。**禁止の立場**：学生がChatGPTから学べないという回避の立場と同じような短所や課題があり、ChatGPTのアウトプットに対して学生が批判的に評価し、学ぶことを教育者が妨げてしまうリスクも存在する。**統合の立場**：柔軟な評価プロセスを確保し、その結果として制度的なアプローチやポリシーを確立することは、このAI技術の現状と急速な進化に対応するために最も重要なことである。

---

教育及び実践への活用

---

教員は、ChatGPT 等を活用し、試験問題作成や講義資料準備等、文章の「校正」でも役立てることができてきている。レポートや試験には、AI を使った解答ができないように AI に答えられないような課題を出す、個人の体験や実習でしか体験し得ない事柄をレポートに含めるようにするなど、工夫している。AI にどのようなことができるかを知った上で、不正行為も予防しながら、学生の意欲を高める工夫が今後も必要である。

学生は、レポート作成のための情報収集や、地域アセスメントのデータを集める際にも、ChatGPT 等を活用している場合もあり、評価にも注意を要するが、「生成 AI」の使用を回避する、禁止する、警戒するというような対応よりも、AI と共存して活用していく方法を引き続き検討していく必要がある。

---

参考文献

---

**ChatGTP(GPT): What is it and how can nursing and health science education use it?**

**Journal of Advanced Nursing.2023;00:1-4.** Mandy M. Archibald, Alexander M. Clark

**<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/jan.15643>**

---

領域名：地域保健看護

報告者：池本 温美

### 教育及び実践の課題

生成 AI は教育に一定の有用性を有する一方で、課題も存在する。生成 AI の回答を鵜呑みにすることで、学生の批判的思考力や情報の正確性を判断する力が弱まる可能性がある。さらに、生成 AI を多用することで自ら調べ考える主体的学習の姿勢が損なわれる懸念がある。また、生成される内容には誤りや偏りが含まれることがあり、教員には学生がそれを見抜き修正する力を育成する工夫が求められる。加えて、レポートや課題の作成に生成 AI が安易に利用されると、学習成果の正当な評価が困難となる場合がある。これらを踏まえ、教育者は生成 AI を補助的に位置づけ、適切な活用法と限界を学生に理解させる指導が必要である。

### 活用した論文の概要

看護教育における生成 AI の利点と課題について論じている。生成 AI は授業準備や教材作成、学習支援の効率化、研究活動の補助など教育者の負担軽減に寄与する可能性がある一方、データの偏りや透明性の欠如による信頼性低下、学習者の批判的思考や主体的学びの低下、学問的不正や学術的誠実性の揺らぎといった問題も指摘されている。また、生成 AI による個別化学習支援やフィードバックは有用であるが、プライバシーや情報倫理の課題を伴う。さらに、学術出版では生成 AI の活用が進む一方で、不正確な引用や虚偽生成の危険もあるため、研究者自身の責任が強調される。著者らは、生成 AI の教育的可能性を活かしつつ、その限界やリスクを理解し、倫理的に適切な活用を学生に指導することの重要性を述べている。

### 教育及び実践への活用

現在、生成 AI を授業準備の効率化に活用しており、研究面では関連文献の検索や要約、整理資料の作成にも役立っている。教育的には、生成 AI は学生の主体的学びや批判的思考を低下させる懸念が指摘されているが、別の視点からは利点として捉えることもできる。生成 AI の提案をもとに学生が「なぜ」と問いを深めることで、思考を掘り下げる契機となり得る。また、生成 AI の生成物をそのまま回答とするのではなく、学生に内容を批判的に検討させることで、学習効果は高まると考えられる。例えば、健康相談の場面を生成 AI に模擬的に生成させ、その内容の妥当性を学生が検討することで保健師に必要な能力を養う機会となる。今後は、生成 AI を補助的に用いながら学生が主体的に講義に参加できる方法を検討していきたい。生成 AI の利点をうまく活用し、その教育的可能性を広げる工夫が重要であると考えられる。

### 参考文献

Ahmed, Sirwan Khalid. "Artificial intelligence in nursing: Current trends, possibilities and pitfalls." *Journal of Medicine, Surgery, and Public Health* 3 (2024): 100072.